

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」）

第6条（外部からの衝撃による損傷の防止）に係る説明書

（その2：耐外部火災設計）

の新旧対比表

変更前（第375回核燃料施設等の新規制基準適合性に係る審査会合（令和2年09月29日））

原子炉施設の東側にあつては、想定される発火点と防火帯の外縁（火炎側）までの距離を考慮し、迅速な予備散水を可能とする設備を設ける。予備散水設備の設置方針を第1図に示す。発火点から森林境界までの火炎到達時間が約7.1分であることを踏まえ、火災を検知してから、当該時間内に、予備散水を開始できる設計とする。

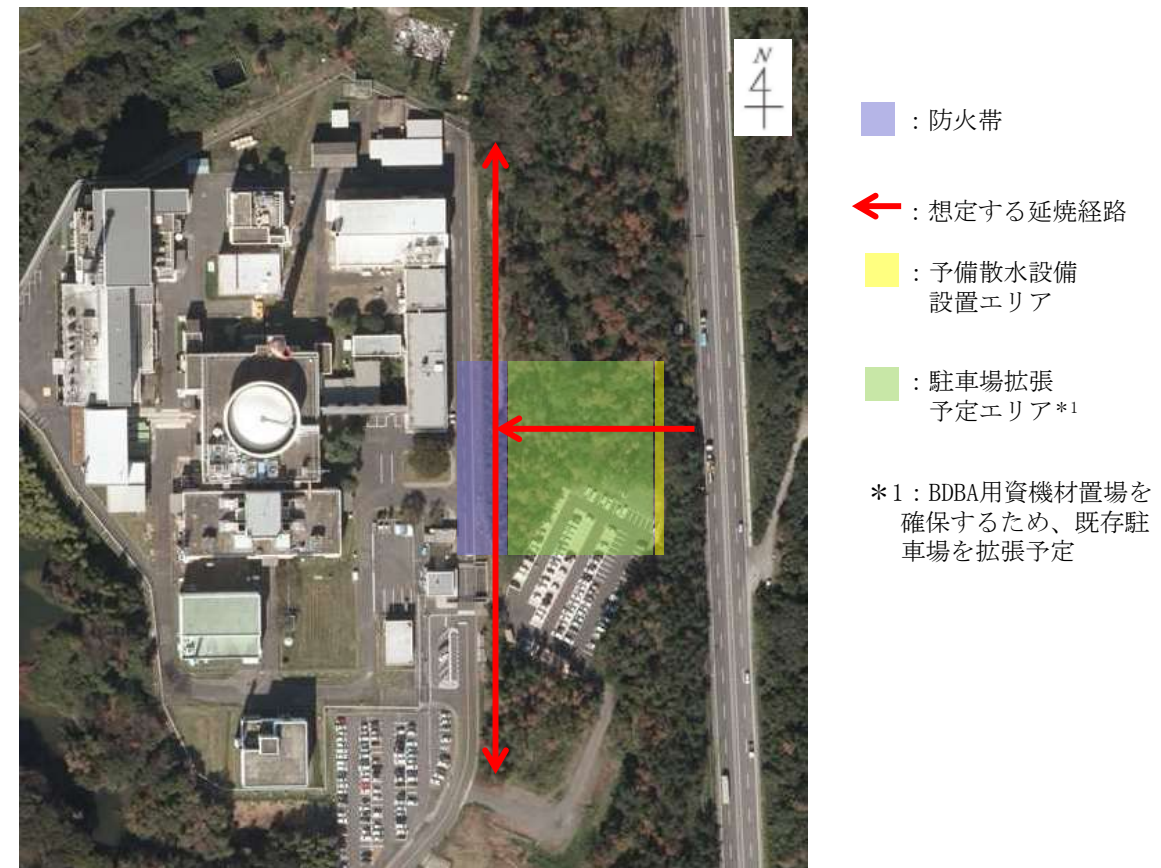


*1：大洗研究所で保有する化学消防車（放水
量：約2.89m³/min）と同程度の放水量に相当

第1図 予備散水設備の設置方針

変更後

原子炉施設の東側にあつては、想定される発火点と防火帯の外縁（火炎側）までの距離を考慮し、迅速な予備散水を可能とする設備を設ける。予備散水設備の設置方針を第1図に示す。発火点から森林境界までの火炎到達時間が約7.1分であることを踏まえ、火災を検知してから、当該時間内に、予備散水を開始できる設計とする。



*1：BDDBA用資機材置場を確保するため、既存駐車場を拡張予定

*2：「動力消防ポンプの技術上の規格を定める省令」
第16条別表に定めるB-1級（規格放水量：1.5m³/min
以上）と同程度の放水量に相当

第1図 予備散水設備の設置方針

駐車場拡張
（BDDBA 用資機
材置場確保）等
に伴う予備散水
設備の設置場所
及び放水量の見
直し